

2026年度入学試験問題

国 語

(10月25日)

経済経営学部	ビジネス学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
法学部	法律政治学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
文学部	人間学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
教育学部	心理・教育学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
教育学部	児童教育学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
理工学部	情報システム工学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
理工学部	グリーンテクノロジー学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
理工学部	生命理工学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
看護学部	看護学科	(数学・英語のいずれかを選択しても可)
国際教養学部	国際教養学科	

開 始 午前 10 時 30 分

終 了 午前 11 時 30 分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は 16 ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

 と表示のある問いに対して
◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号 10 の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
----	-----	-----	-----	-----	-----

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

ゴリラには、シンギング、ハミングという歌声がある。シンギングとは高く細い声で、子どもたちがよく出す。その声を聞くとおとなのゴリラたちが集まってくる。ハミングには2種類あり、一つはみんなが近くで散らばっておいしいものを食べている時に出る。低い声や高い声が連なって楽しそうに声を交わし合う。もう一つは伸びやかなメロディーで、若いオスがひとりである時に出すことがある。私はかつてそれを聞いて、ヨーロッパ民謡を人間が歌っていると勘違いしたことがある。喉頭が下がっていないゴリラでも、これほど歌に近い声を出すのだから、立って喉頭が下がった初期の人類はもっと多様な歌声が出せただろうと思う。

チンパンジーにはバント・フートと呼ばれる大きな声がある。大きく息を吸って肺をふくらまし、呼気と吸気でそれぞれ声を発する。おいしそうなフルーツがなっている樹にたどりついた時、突然雨が降ってきて興奮した時に、みんなが大声で大合唱する。雷雨の際は興奮が高まって踊りだすのでレインダンスと呼ばれる。立って二足で走り出し、足で地面を踏み鳴らす。チンパンジーではすでに歌と踊りが組み合わされる萌芽が見えるのである。私がケイアイする山尾三省^Aという詩人がある。屋久島の森に棲んで、野良仕事をしながら詩を書き続けた。亡くなる2年前に琉球大学で5日間にわたって講義した記録が『アニミズムという希望』（野草社）という本になっている。その中にこういう文章がある。「踊るといのは、歌と同じように魂の叫び」、「体の底から踊るということは、言葉を話すことと同様に人間性の深淵」。しかし、私は歌も踊りも、言葉の登場よりずっと前に出てきた人間の本質的なコミュニケーション手段だと思う。

1万年前に食料生産（農耕・牧畜）が始まるまで、人類の進化史の700万年近くは狩猟採集生活で彩られていた。現在でも狩猟採集生活を続けている人々がいる。私がゴリラの調査をする際に手伝ってくれたピグミー（※）と呼ばれる人々もそうだ。彼らはふつうリケンベ（指琴）を弾きながら太鼓をたたき、輪になって踊るのだが、ポリフォニーと呼ばれる合唱をすることがある。これは一人1音を発し、多くの人が発声しながらメロディーを整えていく。指揮者はいないが、しだいに勢いのある美しい合唱となっていく。それにダンスも加わって、みんなが一体となって歌い踊る。＊

集合的な踊りとは、自分の身体を仲間に預け、仲間の身体を自分が受け止め、一緒にリズムを刻む行為である。考えてみれば、直立二足歩行はたくさんさんの弱みを抱え、なお新しい強みを創り出す身体の変革だった。そこには歌と踊りが重要な役割を演じている。

^B自由になった手で食物を運び、安全な場所で仲間といっしょに食べる食事という行為によって、人類は見えないものを欲望するという新しい精神性を手に入れた。待っている人々は、遠くへ行った仲間がおいしい食物を持ち帰ってくるといふキタイを抱く。食物を探している人々は、そういうキ

タイを抱いて待っている仲間が居るという気持ちをもつ。だからこそ、食物が人と人をつなぐ役割を果たし、食事は信頼を醸成する社会的な場となる。おいしい食物をいっしょに食べた人たちは、ゴリラのようにハミングを発し合ったかもしれない。【①】

また、それらの食材がどこにあったのか、どのようにして採取したのかなど、情報が必要になり、それを身振りや手振りによって示すようになったであろう。今でも狩猟採集民たちは、その人に自分が経験したことを踊りの中で示す習慣がある。ゾウやバッファローやコブラの真似まねなどをするのが得意だ。その身振りが次第にリズムを刻んで踊りとなったと想像するのは難しいことではない。【②】

いっしょに踊ることによって、仲間の体験を自分のものにし、それを **X** ことができるようになったのである。これこそ、言葉の登場前に人類が発達させた独自のコミュニケーションではないかと思う。

俗にサル真似と言うが、サルには仲間の行為をソクザウにそっくり真似ることはできない。目的もわからずに、他人の動作をすぐにコピーできるのは人間だけである。人間のこどもは生後半年ぐらいで、向き合った人の表情を真似し始める。【③】

(注) 羊男が言ったように、まさに人間は「**Y**」のである。そして、おそらく人類は人間だけを相手にしたのではなく、他の多くの生物と踊ってきたのではなかったか。それぞれの種は活動のリズムが異なっているが、どこかでそれを合わせて密接な関係を保ち、自然の流れを作っている。人類はそのリズムに同調し、流れに乗れたからこそ次々に新たな環境に進出し、多くの生物と調和することができた。私が付き合ってきたピグミーの人々も、森のさまざまな生物と会話する術を知っている。【④】

しかし、食料生産を始め、都市を作り、産業革命を起こした工業を中心としたものづくりが主流となった人間は、生き物たちと踊ることを忘れた。さらに、通信情報革命のただ中にいる現代人は、人間どうして踊ることも忘れてしまったような気がする。踊らなくなった人間たちが自分たちに都合のいい機能と効率ばかりを追い求め、環境破壊を繰り返した結果、自然も踊ることを止めて調和を失い、猛威を振るい始めたのではないだろうか。

【⑤】

今まさに、私たちの身体に刻まれたリズムを取り戻し、自然と調和すべく、再び踊り始めなければならない時代なのである。

(原文注) ※アフリカの熱帯降雨林に暮らす採集狩猟の民。成人男性の平均身長が150 cm以下の民族の総称でもある。

(山極寿一)「私たちは再び踊り始めなければならない」による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。

(注) 羊男——村上春樹の小説『ダンス・ダンス・ダンス』の登場人物。問題文以前に羊男の言葉が引用されている。

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが2、ウが3。

ア ケイアイ

- (a) ケイエンされるタイプの学者
(b) 病気のケイカを見る
(c) 二国間でケイソウが続く
(d) 人が住んだケイセキがある
(e) ケイチョウに値する考え

イ キタイ

- (a) キシヨクが悪い
(b) 新しいガツキが始まる
(c) 実力をハッキする
(d) 問題の解決にキヨする
(e) キキュウ存亡のとき

ウ ソクザ

- (a) 能力をタメす
(b) 水道がトまる
(c) スピードがハヤい
(d) 解決方法をサグる
(e) 席にスワる

問二 筆者は、ゴリラとチンパンジーを対比してどのように述べているか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマ

ークしなさい。解答番号は4。

- (a) ゴリラには、特徴的なそれぞれの個体が発する歌声しかないが、チンパンジーは合唱することができる。
(b) ゴリラはいくつかの歌声をもっているが、チンパンジーは歌に踊りを組み合わせる萌芽が見られる。
(c) ゴリラには、シンギングとハミングの2種類の歌声があるが、チンパンジーにはパント・フートという歌がある。
(d) ゴリラのハミングには、2種類のものがあるが、チンパンジーにはレインダンスと呼ばれる踊りがある。
(e) ゴリラは人間の歌に近い多様な歌声が出せるが、チンパンジーにはそうした多様性が見られない。

問三

傍線部A「山尾三省」と筆者の見解を比較してまとめたものとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 5。

- (a) 野良仕事をしながら詩を書き続けて人間のコミュニケーションを考えた山尾氏に対し、筆者はゴリラやチンパンジーの観察を通して人間について考察を深めている。
- (b) アニミズムには希望があると考える山尾氏の意見に、筆者もピグミーとの生活から得られた考察結果から、コミュニケーション手段として同じ意見を持っている。
- (c) 踊ることは、歌と同じく人間性の深淵にあるものと捉える山尾氏と同様に、筆者も踊りと歌、とくに踊ることが人間であることの証だと捉えている。
- (d) 歌や踊ることは言葉と同様に人間の本性だとする山尾氏に対し、筆者は歌や踊りは言葉以前のコミュニケーション手段だと考えている。
- (e) 体の底から踊ることは魂の叫びであり、言葉よりも優れたコミュニケーションであると考える山尾氏とは別に、筆者は踊ることこそが本質的なコミュニケーションと思っている。

問四

傍線部B「自由になった手で食物を選び、安全な場所仲間といっしょに食べる食事という行為」によって人間ができるようになったこととして、本文で述べている最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6。

- (a) 仲間が食べ物を持つてくることを心待ちにし、いっしょに食事をするを通して社会的なつながりを持つことができるようになった。
- (b) 別の場所を取ってきた食物をいっしょに食べるという行為によって、その場では分からない食物を得る様子を理解することができた。
- (c) 実際に見たことがないものを想像して、欲望するという心を手に入れることができるようになった。
- (d) 手が自由になることによって、食物を得た場所から仲間の居るところへ運ぶことが可能になり、いっしょに食事できるようになった。
- (e) いっしょに食事することによって互いの信頼関係を作り、食事の場で歌うことを通して人々のつながりを強くすることができた。

問五 次の文は、本文の【①】～【⑤】のどこに入るか。次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

7

この能力こそが人類の学習効率を高め、社会力を増進させる原動力になったに違いない。

(a) 【①】

(b) 【②】

(c) 【③】

(d) 【④】

(e) 【⑤】

問六 空欄 X に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

8

(a) 思い出す

(b) 語り伝える

(c) 積み重ねる

(d) 表現する

(e) 共有する

問七 空欄 Y に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は 9。

- (a) 踊って歌う
- (b) 互いに話す
- (c) みんなで食べる
- (d) 意味なく踊る
- (e) やたらに歌う

問八 傍線部C「再び踊り始めなければならない」と結論している理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号は 10。

- (a) 生き物たちと踊ることを忘れた人類が、再度生き物たちとの関係を修復する必要を強く感じるから。
- (b) 自然とのつながりを失い、さらには人間とのきずなまで失ってしまった現代において、人間どうしのきずなを復活させる必要があるから。
- (c) 他の生き物や自然と調和することを忘れてしまった人間が、もう一度自然との調和を取り戻す必要があるから。
- (d) 人類が、自然環境を破壊することによって大きな災害を引き起こしてしまっていることを、深く省みる必要があるから。
- (e) 私たちに深く刻まれた踊りのリズムを取り戻すことによって、生き物や自然とともに生きていた時代に帰ることができるようになるから。

次の文章を読んで、問一―七に答えなさい。

私たちは、目が覚めてから眠りにつくまで、たえずさまざまなことを経験している。経験は、私たちの生のなかに時たま入り込んでくるような特別な出来事ではなく、むしろ睡眠や空想などによって中断しないかぎり進行していくような日常的な出来事であると言ってよい。

私たちはそのような経験の進路を決めるために「身を入れて」生きることができ、そのように主体的な姿勢をとらなくても半ば自動的に経験は進行していく。だからこそ私たちは、経験の流れに「身を X」生きることができるのである。いずれにせよ、私たちはみずからの生を織りなす経験を、ごく当然のこととして素朴に生き抜いている。

ここで「素朴（ナイーブ）」という言葉が意味しているのは、まだ批判的な検討を受けていないということである。知を愛し求めるあまりに何事にも批判的な検討をするのが哲学の基本姿勢なので、哲学の思考は、素朴な生から一旦距離をとることで始まると言えよう。ただし、素朴であるということとは決して悪いことではない。思考によつてそこから一時的に離れることができたとしても、最終的に立ち戻るべきはやはりこの素朴な生なのである。

では、素朴な経験^Aにおいて、私たちは何を無批判に受け入れているのだろうか。端的に言えば、それは、世界が存在するということだろう。私たちが経験しようとしまいと、世界やそこに属する様々なものは、とにかく存在している。だからこそ私たちは、それらのものについて経験することができるのである。

例えば、窓の向こうにリンゴの木が見えるのは、窓の向こうにリンゴの木があるからである。リンゴの木が見えるという経験が成立する理由は、実際に窓の向こうにリンゴの木があるからであり、要するに「リンゴの木あってこそその経験」なのである――口に出すのはばかられるほどに当たり前なこうした信念に支えられて、私たちは日々の生活を送っている*。

ひとまずフツサル^(注1)は、このような信念のもとで営まれる素朴な経験のことを「自然的経験」と呼んでいる。したがって、ここでの「自然的」という言葉は、「素朴な」とほぼ同義であると考えてよい。それゆえ自然的経験は、自然科学という意味での「自然」だけに関わるわけではない。例えばリンゴの木という自然物がそれ自体で存在していることを素朴に受け入れることが自然的経験であるのと同じように、机という人工物がそれ自体で存在していることを素朴に受け入れることも自然的経験なのである。

* この自然的経験にとどまっている状態においても、私たちは、経験とはどういうものかがある程度まで論じることができる。

まず確認しておきたいのは、経験は、絶対に間違えることがありえないような無敵のはたらきではないということだ。たしかに経験は、何がどのよう存在しているのかを私たちに否応なく思い知らせ、それによって私たちの知識を基礎づける。しかし、この基礎は、一度与えられたら絶対に揺る

がないようなものではない。

実際のところ私たちは、何が経験されているのかを時間をかけて徐々に明確化していくことがあり、その過程のなかでしばしば当初の勘違いに気づくこともある。^B経験は一瞬で決着がつく出来事ではなく時間的なプロセスであり、しかもそのプロセスのなかでは、「ちょっと間違えていました」や「ぜんぶ間違えていました」^{*}といった修正が入る可能性がある。このとき、それまでの経験は勘違いであったことが判明するのである。（中略）以下では江戸時代のコツ^アケイ本の傑作、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』を取り上げてみよう。

この本のなかで、伊勢神宮に向けて旅をする弥次郎兵衛と喜多八^{（注2）}（北八）は、道中で様々な勘違いをする。浜松の宿では、喜多さんが幽霊を見たと言い出して弥次さんを震え上がらせるが、後になって軒端^{のきば}に干してある襦袢^{（注2）}を幽霊と見間違えていたことが判明する。これは先行する視覚経験が後続する視覚経験によって訂正される一例である。

また翌朝には、喜多さんが茶店の前にぼた餅を見つけてかぶりつくが、じつはそれが木でできた見本であったことが判明する。この場合は、

Y

 と言えよう。

弥次さんも喜多さんも経験の批判的な検討からは縁遠い人であり、愛すべき素朴さで旅をしている。したがって道中での彼らの経験は自然的経験であると言って差し支えないだろう。しかしこの自然的経験においても、すでに経験の重要な性質^Cを指摘することができる。それは、経験が志向性をもつということだ。

志向性というのは、私が何かを経験したり空想したりするときに、その何かと私のあいだに成り立っている関係性のことである。私の経験や空想は必ず何らかの対象（例えばリングの木やぼた餅）についての経験や空想であって、いかなる対象ももたない経験や空想は考えられない。そのようにして私が経験や空想において何かの対象に向かっているとき、経験や空想は、その対象への志向性をもつと言われる。（中略）

喜多さんの経験の進行において、幽霊やぼた餅だと思われるものは、やがて襦袢として、あるいはぼた餅の看板（木製の食品サンプル）として捉えなおされる。ただし喜多さん自身も気づいているように、このとき外界のほうに決定的な変化が生じたわけではない。

幽霊が襦袢に姿を変えたわけではないし、茶店の主人がぼた餅と看板を入れ替えたわけでもない。むしろ変わったのは

Z

のほうである。勘違いに気づく以前の喜多さんの経験においては、幽霊やぼた餅への志向性が成立していた。しかし勘違いに気づいたあとには、かつての志向性はテッカイ^イされ、新たに襦袢や看板についての志向性が成立する。このように志向性は、錯覚（勘違い）や、その錯覚の訂正について説明するときにも有効なのである。

（鈴木崇志『フッサール入門』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。）

(注) 1 フッサル——ドイツの哲学者。

2 襦袢——和服用の下着。

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

11、イが 12。

- | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|---|---|----|-------|-----|---|-----|-----|---|----|---|
| ア | | | | | イ | | | | | | | |
| コッ ケイ | | | | | テッ カイ | | | | | | | |
| (a) | ホネ | が | 折 | れる | (a) | サ | ポ | ー | ト | に | テッ | す |
| (b) | 時 | を | キ | ザ | む | (b) | 同 | じ | テ | ッ | を | 踏 |
| (c) | ナ | メ | ら | か | な | 曲 | 線 | (c) | 大 | 臣 | を | コ |
| (d) | 喉 | が | カ | ワ | く | (d) | 講 | 演 | を | テ | ッ | キ |
| (e) | 春 | の | 訪 | れ | を | ツ | げ | る | (e) | 機 | 材 | を |

問二 空欄 X に入る語として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 13。

- (a) 落として
(b) 委ねて
(c) 粉にして
(d) 投じて
(e) 晒して

問三 傍線部A「素朴な経験」についての説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は 14。

- (a) なぜそれを行うのかを考えてしまいたくなるようなタイプの毎日のルーティーンのこと。
- (b) 目に映るリンゴの木について意識する瞬間のような日々の生活のこと。
- (c) 哲学的な思考により検討することが求められるような日常的な出来事のこと。
- (d) 日々の出来事について特段問い直すことをせずに生きている状態のこと。
- (e) 私たち人間が生き抜くうえで立ち戻るべきありのままの生のこと。

問四 傍線部B「経験は一瞬で決着がつく出来事ではなく時間的なプロセス」であるといえる理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一

つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 15。

- (a) 私たちの世界の見方は常に正しいとは限らず認識に誤りがあった場合に経験の対象を把握し直すことがあるため。
- (b) 経験されている対象の多くは時間的な経過に伴い自動的に変質する性質があるため。
- (c) 人間が経験から学ぶことができるのは対象に対する理解を徐々に明確化していく能力によるため。
- (d) 存在を知覚させ知識を基礎づける経験のはたらきは刻々と変化する状況と呼応しているため。
- (e) 間違いや勘違いは私たちが世界が存在していることを無批判に受け入れていることにより生じるため。

問五 空欄 Y に入る語として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 16。

- (a) 先行する味覚経験が後続する触覚経験や味覚経験によって訂正されている
- (b) 先行する味覚経験が後続する視覚経験や触覚経験によって訂正されている
- (c) 先行する視覚経験が後続する触覚経験や味覚経験によって訂正されている
- (d) 先行する視覚経験が後続する視覚経験や触覚経験によって訂正されている
- (e) 先行する触覚経験が後続する視覚経験や味覚経験によって訂正されている

問六 傍線部C「重要な性質」についての説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は 17。

- ① 経験や空想は拡散的なものではなくある一点に集約されるという意味において志向性を有している。
- ② 経験する主体と意識される対象との間には必ずつながりが生じておりそこには一定の方向性が存在している。
- ③ 私たちの空想の対象は時間とともに変化し常に異なる対象へと意識が向けられる性質がある。
- ④ 対象をもたない経験は存在せず、世界の側はどんなときにも変化しないという前提がある。
- ⑤ 勘違いに気づく前の対象と気づいた後の対象との間には関係性が成り立っている。

問七 空欄 Z に入る語として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 18。

- ① 素朴な生
- ② 対象との距離
- ③ 経験の進行
- ④ 批判的な検討過程
- ⑤ 喜多さんの志向性

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、問一～七に答えなさい。

昼過ぎまでわたしはぐずぐずと寢床の中で過ごしていた。このひと月、とても忙しかったのだ。部屋に帰り着くのはいつも夜の十二時近く。そのま
ま風呂にも入らず、顔をこしこし洗ってからすぐさまばったりと眠りにつく日が、幾日も続いた。週末も、ほとんどが出社。ろくなものを食べていな
かったのだ、やつれた表情になる。わたしはくいしんぼうなので、ゆつくりと好き勝手に食べられないと、だんだん生気がなくなってくるのだ。顔つ
きが、暗くろくなったくなるのだ。

それがようやく昨日の金曜日で、忙しさに一段落がついた。^A ひさしぶりの、土曜日の朝寝だった。思うさま朝寝した後は、風呂にたつぷりと湯をため、雑誌を持って入る。髪を洗い、いい匂いのする液をたらしした湯に何回も浸り、その間に雑誌の半分ほどをセイドクし、ときどき風呂の外に出て涼む。二時間ほとんど風呂で過ごしたにちがいない。

湯をおとして浴槽をささっとみがき、頭にタオルをまきつけただけの裸姿のまま、部屋の中を闊歩^{かつぽ}した。一人でいるのはいい、と思う瞬間である。

冷蔵庫を開けて炭酸水の瓶を取り出し、コップに半分ほどついできぐいぐい飲む。そういえば若いころは炭酸水が苦手だった。二十代のころ、女友達と二人でフランスを旅したときに、喉^{のど}が渴いたのでカフェに入ったことがある。ただ水が飲みたくて、「水」と注文したら、炭酸水が出てきた。渴ききった喉をうるおそうとして飲み下したとたんに、むせて吐き出しそうになった。喉は渴いている。水は目の前にある。しかしその水はふつつと炭酸を湧きださせている、つらく硬い水であった。飲みたくとも、喉が拒否した。「炭酸水ではなくふつうの水がいいんです」というフランス語を喋^{しゃべ}ることができなかつたので、友人の頼んだレモン水を泣く泣く分けてもらった。甘いレモン水だった。甘さがにくらしかつた。そのころはまだ水の代わりにビールで喉をうるおすような生活はしていなかつたのだ。

炭酸水を好むようになったのは、三十代の半ば以降である。ハイボールやら酎ハイやらをしばしば飲むようになった。ウィルキンソン炭酸の緑の細い瓶を、いつの間にか冷蔵庫に常備するようになった。ついでに、ウィルキンソンジンジャエールも数本。酒をあまり飲まない友人がたまに訪ねてくるときのために置いてある。服も食べ物も道具も、おおかたは銘柄を気にしない無頓着な質だが、炭酸だけはウィルキンソン社製と決めている。歩いて二分のところにある酒屋がたまたまウィルキンソン社の炭酸を扱っているというのが、おもな理由である。偶然のような理由ではあるが、もしもこの場所から引越して、その引越先の近くに酒屋がなかったとき、はたまた酒屋はあつたとしてもウィルキンソン社謹製品を扱っていなかったときには、たぶん炭酸水を常備することはもうないだろう。と、その程度の拘泥こたわりだ。

一人でいると、かくのごとく頭の中で思うことが多い。ウイルキンソン社云々のことも遠い以前の欧州旅行のことも、炭酸の中の泡のようにふつふつと頭の中に湧き出でてはむやむやとひろがる。わたしは裸のまま姿見の前にほんやり佇たたずんでいるのだ。そういうときに、横にいる誰かと会話を交わすがごとく、Xと、むやむやと広がったことごとくを確かめあうのだ。姿見の中の、必要以上に重力に対して素直な自分の裸のからだは、いっさい目に入っていない。見えている自分ではなく、見えていない自分、部屋にフユウイしているこまかな自分の気配みたいなもの、と会話を交わすのである。

夕方まで部屋にいた。本をめくりながら、ぼんやりと過ごした。そのうちにまた眠くなつて、三十分ほど眠ったりもした。目が覚めてカーテンを開けてみると、すっかり暮れている。暦の上では立春過ぎだが、まだ日は短い。冬至Cのころの、追いつてられるような日の短さのほうが、いっそのこと気楽である。どうせすぐさま暮れてしまうのだと思えば、暮れがたのあの後悔をさそうふぜいの薄闇にも、心がそなえを持つことができる。まだ暮れまい、もうちょっとは暮れまい、と思うようになる今どきの日脚の伸びたころの夕暮れには、足をすくわれる。あ、暮れた、と思った次の刹那に、ひしひしと心細さが押し寄せてきてしまう。

Dそれで、外に出た。通りに出て、生きているのは自分だけではないことを、生きて心細い思いをしているのは自分だけではないことを、確かめたくなった。しかし通る人の姿かたちを見ているだけでは、そんなことは確かめようがないのだ。確かめたい確かめたいと思うほど、何も確かめられない。Eそんなときに、センセイにばったりと行きあった。

（川上弘美『センセイの鞆』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)のうちから、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 19、イが 20。

ア セイドク					イ フユウ				
(a)	荷物をセイリする	(b)	目標をタツセイする	(c)	セイロンを述べる	(d)	セイミツな機械	(e)	時間のセイヤクを受ける
(a)	フツゴウが生じる	(b)	新たな課題がフジョウする	(c)	トレーニングでフカをかける	(d)	フゾクヒンを同封する	(e)	数式のフゴウ

問二 傍線部A「一段落がついた」の意味として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

21。

- (a) 最初の部分が終わった。
- (b) 前半部分が終わった。
- (c) さりのよいところまで終わった。
- (d) ほとんどが終わった。
- (e) 最後まで終わった。

問三 傍線部B「ウィルキンソン社云々のことも遠い以前の欧州旅行のこと」とあるが、その効果の説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

22。

- (a) 二つの出来事を取り上げることで、重大なことを述べようとしていることを暗示している。
- (b) 二つの出来事を取り上げることで、いろいろなことが目に見えるようになっていくことを示している。
- (c) 二つの出来事を取り上げることで、ふとしたことから思考が始まることを示している。
- (d) 二つの出来事を取り上げることで、その後の「センセイ」との出会いを明示している。
- (e) 二つの出来事を取り上げることで、「わたし」の性格を示している。

問四 空欄 X に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

23。

- (a) 電話機に向こうの友人
- (b) すぐ横にいる友人
- (c) 鏡に映っている自分
- (d) すぐ横にいるようにでいて、実際にはいない自分
- (e) 別の場所で自分を客観的に見ている自分

問五 傍線部C「冬至のころの、追い立てられるような日の短さのほうが、いつそのこと気楽である」という「わたし」の心情の説明として最も適切

なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- ① あわただしい毎日なので、昼間の忙しさが早く終わってしまうのがうれしい。
- ② 大して昼寝をしていないのにすぐに夜になってしまうので、十分に寝ることができたと感じられる。
- ③ すぐ日が暮れると思うっていると、夜が来ることの心の準備ができてよい。
- ④ 追い立てられるように生きることと他のことを考えなくてよくなる。
- ⑤ 私は夜出歩くのが好きなので、夜が長い冬至の頃が好きである。

問六 傍線部D「それで、外に出た」理由として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

25。

- ① 一日に一度も外に出ないはいけないと思ったから。
- ② 炭酸水を近所の酒屋に買いに行かなければならなかったから。
- ③ 日が暮れてしまって心細くなったので、知り合いに会いたくなったから。
- ④ 心細い思いをしているのが自分だけではないと確認したかったから。
- ⑤ センセイと会う約束をしていたから。

問七 傍線部E「そんなときに、センセイにばったりと行きあった」の「そんなとき」がさすこととして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一

つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 26。

- ① 目が覚めてカーテンを開けたら日が暮れていたことを知ったとき。
- ② あ、暮れたと思った次の刹那。
- ③ ひしひしと心細さが押し寄せてきたとき。
- ④ 生きて心細い思いをしているのは自分だけではないと思ったとき。
- ⑤ 確かめたい確かめたいと思うほど、何も確かめられないと思ったとき。

